

社会科学習指導案（公民的分野）

学 級： 3年1組 34人
場 所： 3年1組 教 室
指導者： 教諭 岸良 明彦

1 単元名 地方自治と私たち

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領〔公民的分野〕2内容C「私たちと政治」(2)「民主政治と政治参加」の中項目を受けて構成した単元である。ここでは、地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務について理解を深めさせる手立てを通して地域社会への関心を高め、住民としての自治意識の基礎を育成することが主な内容となっている。

また、地方公共団体の住民に直接請求権が認められている理由等について、国民主権や住民自治の観点から多面的・多角的に考察することを通して、地方自治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成するための思考力、判断力、表現力等を身に付けることとしている。

本単元の学習を通して、地域社会への関心を高め、日本国憲法における地方自治の保障の重要性に気付かせたい。

(2) 生徒観

本時に関わるアンケート調査によれば、「課題解決のために、周りの生徒（ペア、グループ）と協力して話し合いを行っていますか」という設問に対して、90%の生徒が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答しており、本学級の生徒は、社会科の授業に対する興味・関心が高く、ペア、グループ活動においても意欲的に他者と交流することができている。

また、本校の研究の取組である「『見通し』・『振り返り』の手立ての工夫」として、昨年度からリフレクションシートを活用しているが、「リフレクションシートを活用することで、単元全体の見通しをもつことができましたか」という設問に対して、60%の生徒が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答し、「リフレクションシートを活用することで1時間の学習内容や単元全体の振り返りを行うことができましたか」という設問に対しても、72%の生徒が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答している。

このことから、リフレクションシートで自己の学習理解度を自覚し、新たな疑問や問題意識をもち、以降の学習につなげようとする積極的な生徒が増えてきていることが分かる。

その一方で、シンキングスキルの活用については、問題解決を行う思考の流れの中で、物事を順序立てたり、根拠を明らかにして考えたり、他者に自分の考えを伝えることは定着しつつあるが、生徒によっては、思考の深まりが不十分で既習事項と新たな知識を結び付けて知識の構造化を図ったり、自分の考えをうまく表現できない状況も見られる。

(3) 指導観

本時は、鹿児島市の財政について取り上げ、直面している課題や今後の在り方について考えさせることにより、鹿児島市への関心を高め、住民としての自治意識の基礎を育成させる学習内容である。そこで、鹿児島市の財政が少子高齢化や過疎化の影響を受け、自主財源が年々減少していることに気付かせ、予算削減や農業、観光業といった既存の産業だけに力を入れるだけでなく、人口増加が見込まれるような新しい施策を実施し、国からの補助に頼らない鹿児島市の在り方を住民の立場から理解させる。本時では、財政課題に対する解決策について歳入・歳出などの資料を基に、ペアやグループで話し合う場を設定し、シンキングスキルを活用した生徒自身による主体的な言語活動を促したい。その際、解決策を考える話し合い活動から、地域づくり・町おこしという考え方に意識付けを行い、郷土に対する愛情を育むことができる授業を展開したい。

3 単元の指導目標

- 自分たちが住む地域社会への関心を高めさせ、住民の一人として、地方自治の発展に寄与しようとする自治意識の態度を身に付けさせる。【関心・意欲・態度】
- 地方自治が直接請求という直接民主制の方法を導入している理由について、国と地方公共団体の比較を通して多面的・多角的に考察させるとともに、主権者としての政治参加の在り方について考察させる。【思考・判断・表現】
- 地方自治の課題について、新聞記事やインターネットなどを基に資料を収集させ、シンキングスキルを利用した話し合いを通して多面的・多角的に考察させる。【資料活用の技能】
- 住民自治を基本とする地方自治の考え方や仕組み、地方財政の仕組みについて理解させる。【知識・理解】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
① 身近な地方公共団体の政治について意欲的に調べたり、地域住民の一人としてその在り方について考えたりしている。 ② 自分たちが住む地域の政治に関心を持ち、自分たちにできることを意欲的に考え、提案したり、政治参加の方法について考えたりしている。	① 住民自治や地方分権の考え方について、既習事項を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ② 自分たちが住む地域の特色や課題について調べ、解決のための方法について話し合い、自分の考えをレポートや討論での発言、提言などの形で表現している。	① 地域の課題や地方財政の変化について、資料を収集・選択し、複数の資料を比較して読み取ったり、その結果を図表などにまとめている。 ② 地域のまちづくりに関して、「私たちの政治参加」の手法や、地理的分野や歴史的分野での調査学習で習得した手法を参考に、適切な手段を選択して調査分析し、考えたことや提言を分かりやすく表現している。	① 地方自治の考え方と仕組み、地方財政の仕組みや課題について理解し、その知識を身に付けている。 ② 住民自治を基本とする地方自治の考え方に基づいて、住民の権利や役割に気づき、その内容を理解している。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	- 身近な地域の政治に関心をもち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることに気付いている。 - 地方公共団体の仕事や地方分権の考え方について理解している。	アー① エー①
2	- 地方公共団体の住民に直接請求権が認められている理由について、国民主権や住民自治の観点から、多面的・多角的に考えている。 - 地方自治の仕組みを、地方議会と首長の役割を中心に理解している。	イー① エー②
3 (本時)	- 地方財政の課題と今後の在り方について、多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。 - 地方財政の歳入と歳出、地方財政の課題について、統計資料を基に的確に読み取っている。	イー① ウー①

4	- 自分と地域の政治との関わりについて、多面的・多角的に考察している。 - 住民の政治参加の方法について、そのあらましを理解している。	イー① ウー②
5	- 地域住民の一人として、地域の政治や課題について積極的に調べ、解決策を提案している。 「問題把握→問題分析→意思決定→提言・参加」という政治参加の流れや、地理的分野や歴史的分野で身に付けた調査の手法を参考にして、適切な方法を選択し、資料の収集・選択や調査・分析を行っている。	アー② ウー②
6	- 政治に対する関心を深め、今後、主権者として積極的に政治に関わろうとする態度が見られる。 - 市の課題の解決や将来の展望について、資料や第3章の学習内容、効率と公正の観点などを踏まえて多面的・多角的に考察し、根拠の伴う主張をしている。	アー② イー②

5 本時の実際（3／6）

(1) 単元名 地方財政の仕組みと課題

(2) 学習目標

鹿児島市の歳入と歳出から、財政の課題を的確に捉え、解決するための方策を多面的・多角的に考え、資料を基に分析・表現することができる。

(3) 研究の取組

ア 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(ア) 学習課題の解決に向けたリフレクションシートの活用

単元全体の学習課題と、本時で解決すべき課題の「見通し」を持たせるとともに、学習内容の「振り返り」ができるようにする。また、学習を通じた自己の変容に気付かせる。

(イ) 知識の理解の質を高める問いの設定

展開時に、鹿児島市の財政は将来どうあるべきかについて考察した後、より深い思考を必要とする（新たな問い）について話し合い、歳出の項目ごとに優先順位を決めて発表させる。

【本時における問い】

- ① 鹿児島市の財政には、どのような特徴があるか。（学習課題）
- ② 鹿児島市は、今後、どのような財政を行うべきか。（新たな問い）

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(ア) 社会的な見方・考え方を働かせたシンキングスキルの活用

鹿児島市の将来の歳出について話し合う場では、生徒自らが問題解決の方法や視点を自覚して、個・ペア、グループの考えを整理し、根拠に基づいて説明できるように、シンキングスキルの活用を促す。

(イ) 対話的に課題解決を図る場の設定

鹿児島市の将来の歳出について、グループで話し合う場を設定する。

(4) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	3分	一斉	1 サッカースタジアムの建設費用を予想する。	1 サッカースタジアムの整備計画について興味をもたせる。	
	1分		2 本時の学習課題を設定する。 鹿児島市の財政には、どのような特徴があるか。	2 学習課題をリフレクションシートに記入させる。	アー(ア) 課題解決に向けて見通しをもたせる。
展開	8分	個・ペア	3 資料を基に、立地場所について様々な視点から話し合い、意見交流を行う。	3 どのような根拠で、立地場所を決定したのかワークシートに記入させる。	イー(ア) ワークシートを活用し考えを整理する。
	5分	一斉	4 資料から、建設費はどの歳出項目に当たるのか考える。	4 鹿児島市の歳出・歳入の全体の内容について捉えさせる。	アー(イ) 健全な財政の在り方について考えさせる。
			【新たな問い】鹿児島市は、今後、どのような財政を行うべきか。		
	20分	グループ	5 将来の鹿児島市の歳出について話し合う。	5 将来の鹿児島市の歳出項目に優先順位を付けさせ、根拠を基に話し合わせる。	イー(ア) イー(イ) シンキングスキルを活用し、根拠について多面的・多角的な視点から考えさせる。
終末	5分	個	6 将来の歳出・歳入について、自分の考えをまとめる。	6 自主財源の割合が低い理由について考えさせる。	
			7 大学生が考案した鹿児島市の未来予想図を見て、本時を振り返る。	7 リフレクションシートにまとめを書かせ、学習内容を振り返えさせる。	アー(ア) 学習内容を振り返らせ、自己の変容に気付かせる。
			歳出では民生費の割合が高く、歳入では依存財源の割合が高い。		
	3分	個	8 鹿児島県の財政状況について考える。	8 住民自治・地方自治の視点から鹿児島県の財政を考えさせる。	アー(ア) 本時で得られた知識から、自分の考えを持たせる。